

令和4年度 奈良県立桜井学校 学校評価総括表(年度末報告)	
年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	自由に、その個性に応じて時代感覚をもった学殖豊かな世界人の育成
年度重点目標	豊かに自分らしく生きるため、自分を変える「勇氣」と自己を受け入れる「愛」を育み、安全・安心な社会の構築に貢献する生徒を育成します。

【高等学校用】

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。 【全コース共通】 ○ 目指す4つの資質・能力 1 <主体的学習態度・何度でも挑戦する粘り強さ>個性を磨き、自己実現のため何度でも挑戦する姿勢 2 <課題発見提案力・社会文化探究心>社会とつながり、そのなかで課題を発見し、解決を提案する力 3 <コミュニケーション能力・リーダーシップ>身の回りの状況を把握し、他者とつながり、集団を動かす力 4 <他者協働力・他者受容力>他者の気持ちや置かれている立場を想像・理解し、多様性を認め合う態度	これらに加えて、 【英語コース】 多彩な英語学習の機会に触れることによる、英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力 【書芸コース】 書の学習を通して文化と伝統を学ぶことによる、創造性豊かな感性・書道文化の発展に寄与する態度や能力
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、3つのコースの特性を生かしたカリキュラムを編成し、桜井高校でしか行えない「学び方」を学び、 【全コース共通】 ・ 自己管理能力を獲得し、社会で生きる力を養うプログラム…ノーチャイム、ポートフォリオ ・ 基礎的学力を養うプログラム…オンライン学習 ・ 情報収集を行い活用する力を養うプログラム…ICT教育 ・ 安全や健康の管理を実践し、心身の健康を育むプログラム…部活動、三輪山走歩大会 ・ コミュニケーション能力・リーダーシップを高めるプログラム…フューチャーセンターの活用、生徒会活動	自分の得意や興味・関心を伸ばす教育」を実施します。 ・ 多様性を認め合い、人間的魅力を磨くプログラム…人権学習会、異文化交流 ・ 集団や社会に貢献する態度を伸ばすプログラム…地域ボランティア、地域連携、社会貢献活動、キャリア教育 ・ 得意分野を発見し、とことん探究するプログラム…カリキュラム選択、総合的な探究の時間 ・ 批判的思考力を養い、表現するプログラム…アクティブ・ラーニング、プレゼンテーション ・ 将来(夢)を確立し、自己実現を目指すプログラム…キャリアデザインルーム、インターンシップ
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、「本校の使命」及び「教育方針」を理解し、その達成を目指す意欲に溢れた生徒を受け入れます。 特に、英語コース及び書芸コースにおいては次のような生徒を受け入れます。 【英語コース】 英語への興味・関心が強く、入学後は総合的な語学力や幅広い教養を身に付けたいという姿勢や意欲があり、将来は国際社会で活躍したいと望む生徒 【書芸コース】 日本や中国などの東洋の伝統文化である「書」に興味・関心をもち、入学後は積極的に「書」と向き合い、より深く学びたいという熱意や意欲がある生徒	【英語コース】英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力を獲得するプログラム…イングリッシュキャンプ、海外修学旅行、高大連携 【書芸コース】知識・技能と芸術性を獲得するプログラム…T.T授業、卒業書作展、海外修学旅行、高大連携

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせはぐくむ	健康教育の充実	「健康に関する指導が適切」と回答する生徒の割合 85%以上	昨年度の80.7%を上回る数値。	肯定的に回答した生徒の割合は84%であった。	健康関係の指導で一定の成果を得た。		引き続き、タイミングをみて、保健啓発活動を充実させていく。
	望ましい運動習慣の確立	スポーツテストのスコア54ポイント以上の生徒の割合 50%以上	目標値の50%以上を目指す。	本年度のスコアは、43%であった。男子が1年39%、2年48%、3年59%、女子が1年40%、2年39%、3年40%。	3年男子のスコアが学校全体のスコアを引き上げている。目標には達していないが概ね良好と考える。		性別や学年によってスコアに違いが見られる。どのような生徒のスコアを上げるべきなのかを検討していく。
	豊かな教養の獲得	図書館を利用した生徒延べ数 5,000人以上	昨年度の利用者数(2,827人)を上回る生徒延べ人数。	利用者数(3,199人)、本の貸出数(744冊)で昨年の実績は上回ることができた。	図書館利用者数は昨年の同時期よりも増加している。	読む時間がないというのが読書離れ理由にあるようなので、朝の読書タイム等、読む機会を確保していただきたい。	今後も蔵書を増やした効果を見ていく。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びによる授業の実施	「授業に対して全般的に満足している」と回答する生徒の割合 85%以上	目標値の85%以上を目指す。	学年末の満足度は全体で77%。学年が上がると数値が上がる傾向であった。	より一層の指導方法・内容の改善・充実の推進を図る。	学習指導要領が改訂された中、自己評価や授業アンケート結果の高い評価から教員の努力がうかがえます。	今年度の結果を示し、先生方に授業改善を促す。
	主体的学習態度の育成	ノーチャイムで自分から動くことを心がけ実践する生徒の割合 100%	昨年までの90%以上を堅持する。	学年末アンケートで92%。	自分で意識して行動することが定着している。	自ら考え行動する力が徐々にではあるが身につけていることがうかがえる。	年度末に向かって、実践する生徒の割合が下がらないように、担任、教科担当が学校生活全体について主体的に行動するよう呼びかける。
	家庭学習習慣の定着	1日平均60分以上自主的な学習をする生徒の割合 75%以上	昨年度の実績を上回ることを目指す。	1年:44%、2年:36%、3年:56%。昨年度の全体の平均が43%だったので若干上回った。	1年生は単元テストを実施していることにより昨年度より数値が上がったのではないかとと思われる。	家庭での学習の習慣が身につくようさらに指導していただきたい。	あらゆる機会をとらえ、自分の将来の目標に向け自ら進んで意欲的に取り組むよう促す。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	自己管理能力の育成	1年生で「1週間の計画を立てられるようになった」と回答する生徒の割合 60%以上	「今週のGood Bad Next」を使い計画立案できることを目指す。	1年生で「1週間の計画を立てられるようになった」と回答する生徒の割合は、55%であった。	一週間の振り返りと計画の立案がかなり習慣化してきた。	生活習慣、学習習慣の定着をよくしていただいていると思う。	現在の形で、今後も継続していく。
	進路情報の提供の充実	「進路行事等で自分の進路に関する情報を得られた」と回答する生徒の割合 70%以上	70%を上回る回答を維持できるようにする。	「進路行事等で自分の進路に関する情報を得られた」と回答する生徒の割合は、77%であった。	学期を遡うごとにキャリアデザインルームを利用する生徒が増えた。		現在の形で、今後も継続していきたいと考える。
	キャリア教育の推進	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップに参加した生徒の割合 25%以上	1人でも多くアカデミック・インターンシップを経験するようにする。	11月末現在で、アカデミック・インターンシップを含むインターンシップを体験した生徒は14人であった。	インターンシップの意義を生徒に浸透させていくことが難しい。		進路指導等で、早い時期からインターンシップの意義を生徒に浸透させていく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	主体的活動への参加意欲の向上	ボランティア活動に参加する生徒の割合 80%以上	80%を上回る回答を維持できるようにする。	ボランティア活動に参加する生徒は、毎回200名以上の参加がある。全体では78%であった。	コロナによる様々な制限を受けてきた反動から、行事や部活動に対して好ましい回答を得ている。	ボランティアを含めた社会活動に積極的に参加する生徒をさらに増やしてほしい。	ボランティア活動に参加したくなるように、引き続き各行事の質を高めていく。
	社会参加活動の推進	様々な活動を通して主体的な社会活動への参加意欲が向上した生徒の割合 70%以上	昨年度の実績(47%)を上回ることを目指す。	1年生約65%、2年生約59%であった。昨年度より上回った。	コロナ禍を脱しつつある時期に活動できる機会が増えたことも影響していると考えられる。		家庭クラブや生徒会だけでなく、多くの生徒が参加できる活動を検討する。
	社会的マナーの遵守	「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と回答した生徒の割合 95%以上	95%を上回る回答を維持できるようにする。	95%を上回る回答を維持できるようにする。	「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と回答した生徒の割合は、3学年全体で97%。	登下校指導や集会等を実施が効果的であったと考える。	社会のルールやマナーが身につくよう、粘り強く指導していただいている。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権意識の向上	「人権や命について学ぶことが多かった」と回答した生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。	「人権や命について学ぶことが多かった」と回答した生徒の割合は3学年とも90%以上で、意識が向上した。	人権HRを実施すると共に、公開HRを通じて各クラスが扱ったテーマについてより深く考える機会を持たせた。		お互いのLHRを見学し合う機会をつくる。人権学習会・文化講演会は生徒の心を揺さぶれるような内容で今後実施したい。
	環境整備意識の醸成	校内を美しく保つことを意識している生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。	校内を美しく保つことを意識している生徒の割合は94%であった。	日々の教室の清掃活動などを通して美化意識を維持できた。		日々の教室等の清掃活動を通して、生徒が資源を大切にすることを育めるよう、教職員に呼びかけていく。
	課題解決提案力の育成	フューチャー・センターが役に立っていると感じる生徒の割合 60%以上	昨年度の実績(47%)を上回るようにする。	フューチャー・センターが役に立っていると感じる生徒の割合は、40%であり、さらに数値を上げていく必要がある。	利用が継続的なものとなっておらず、役に立っていると感じる割合が小さかったと考える。		さらに有意義な交流の場となるよう、生徒会役員と共に新たな活用用途を検討する。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

本年度卒業生に対するアンケートでは、「桜井高校に入学して良かったと思う」と回答した卒業生は93.5%であった。また、保護者は91%であった。中期計画1年目で目標値に達している項目が多くある。設定した目標が妥当であると考えているが、2年目以降も達成している状態を維持できるようこのまま取組を続けていく。目標によって進捗状況が大きく異なるが、設定した目標の内容によって進捗状況は違うので、問題ないとする。達成できていない目標については、来年度以降も引き続き取組を続けていく。ただし、インターンシップへの参加生徒数など、最終的に達成困難と見込まれる目標値については、中期計画の変更が必要かどうか再検討する。